

カンボジア王国の概要

● **地域の連結性と域内の格差是正の鍵を握る国**
南部経済回廊の要衝に位置。

● **潜在的な開発可能性。日本企業の投資増大**
ASEAN経済共同体, 中・越・タイ・プラスワン
＝経済成長率, 安価な労働力

* 人口…約1,601万人(2017年推定値, 出典IMF)

* 面積…約18.1万km²(日本の約半分)

* 民族…人口の大半(9割)がクメール人とされる。
他に中国人, ベトナム人, チャム人など

* 宗教…上座部(小乗)仏教(95%)
イスラム教(3%), キリスト教(2%)

* 政治体制…立憲君主制

* 経済体制…市場経済

* 一人あたりGDP…1,390米ドル
(2017年, 出典IMF)

* 主要産業…農業, 縫製業, 建設業, 観光業

* 外交…中立・非同盟, 近隣国をはじめとする各国との平和共存

* 軍事…予算:628百万ドル, 総兵力:12万4,300人
(2016年, 出典:ミタリーバランス2017)

* 在留邦人数…3,518人(2017年10月)

* 進出日系企業数…309社(2017年10月)

● **地域・国際場裡における連携パートナー**
2013年, 両国関係は「戦略的パートナーシップ」に格上げ。

● **歴史的関係と親日的な国民性**
16世紀以来の交流と和平以来約30年の協力。日本は主要援助国



長期政権運営

- フン・セン首相は和平前(85年)から首相の地位を保持。
- 和平後6度目となる18年7月の国政選挙は、前年に政党法違反で解党された野党・救国党の参加なく行われ、与党・人民党が全125議席を独占。上院や地方議会も救国党解党により人民党がほぼ独占。
- 最高諮問勸告評議会を通じ、小政党との対話を進める。

課題

- 政治・人権状況への批判が高まる中、今後も民主的発展の道を引き続き歩むことが課題。
- 経済の持続可能な高成長を維持するための多角化、競争力強化、生産性向上。「(良い統治)の実現を中核に置いた開発戦略(四辺形戦略)を実施中。」
- クメール・ルージュ裁判を通じた正義の実現と法の支配強化。

経済状況

- 国家予算の約2割を外国援助に依存。
 税収拡大による歳入の増加が課題。
- 貿易、建設業、観光の順調な伸びを背景に高い成長率

年	09	10	11	12	13	14	15	16	17
成長率%	0.1	6.0	7.2	7.3	7.4	7.1	7.2	7.0	6.9
インフレ率%	▲0.7	4.0	5.5	2.9	3.0	3.9	1.2	3.0	3.7

(出典:IMF, 2017年)

投資

- 海外直接投資の誘致を政府として強く促進。
- 縫製業や観光業が中心。
- 投資国は中国、韓国が圧倒的に多い。

●国別順位(1994~2015年)

- ①中国(127億ドル)
 - ②韓国(56億ドル)
 - ③マレーシア(31億ドル)
 - ④英国(27億ドル)
 - ⑤ベトナム(18億ドル)
- (日本は16億ドルで6位)

(出典:カンボジア開発評議会)

貿易

- 産業の多角化及び輸出先の多角化を目指す。

●貿易品目(2016) (出典:カンボジア政府)

- ・輸出: 100億ドル(衣類, 履き物, 穀物, ゴム)
- ・輸入: 115億ドル(織物, 機械, 電気機器, 石油製品, 車輛)

●輸出先(2016)

- 1位: 米国(20%)
- 2位: イギリス(8%)
- 3位: ドイツ(8%)
- 4位: 日本(7%)
- 5位: カナダ(6%)

●輸入元(2016)

- 1位: 中国(35%)
- 2位: タイ(13%)
- 3位: ベトナム(9%)
- 4位: 香港(5%)
- 5位: 台湾(5%)
- (7位: 日本(4%))

(出典:IMF)

外交

- 国際社会での地位向上を追求。2012年ASEAN議長国。
- 偏重外交が国運を左右した過去を持つ国として、カンボジアとしてはバランス外交を展開している認識。
- 主要国や近隣国との関係

中国: 要人往来(2016年10月習近平主席, 18年1月李克強首相訪問, フン・セン首相は頻りに訪中(2017年5月, 9月, 11月, 2018年9月)。投資(1位), 援助(大規模インフラ)でプレゼンスを拡大。

米国: 選挙支援や軍等への支援を停止。一部政府・軍高官・家族への査証発給停止や資産凍結措置を導入。

EU: 選挙支援を停止。貿易特惠待遇について見直し中。

タイ: 2008年プレアビヒア寺院の世界遺産登録を機に大規模武力衝突が発生したが、現在情勢は安定。

ベトナム: 与党人民党は伝統的友好関係。

日カンボジア関係

歴史的関係で結ばれた絆の強化と戦略的パートナーシップ

- －1954年11月、カンボジアは対日賠償請求権放棄を通報。翌年12月、衆議院での対カンボジア感謝決議。
- －1980年代後半以降、我が国はカンボジアの和平・復興・開発に貢献。1992年9月、初のPKOをカンボジアに派遣。
- －2013年11月、日カンボジア外交 関係樹立60周年を記念し、安倍総理がカンボジア訪問。同年12月、フン・セン首相が訪日し、両国関係を「戦略的パートナーシップ」とすることで合意。
- －2016年5月、航空協定発効(9月1日より直行便が就航)、2018年1月、シムリアップ領事事務所開設。
- －和平以来、カンボジアの民主的発展の道を支えてきた友人として、そうした道を今後も引き続き歩むよう働きかけ。

経済関係

●整備される投資環境

・日カンボジア投資協定、官民合同会議の開催。

●日本企業の投資が順調に進展(特に製造業)

・2010年末に50社であった日本人商工会正会員は、2018年1月時点で、186社。2016年投資認可額は約822百万ドル。

●貿易額は2005年の総額約197億円から2016年の総額約1642億円へと約8倍に拡大

- ・日本の輸出:約333億円(車両・部品, 建設用機械, 電気機器等)
- ・日本の輸入:約1309億円(衣類, 履き物, バッグ類等)

国際場裡

- 国連改革に関する日本の考え方(常任理事国入り含む)を支持
- 各種選挙や決議案に対する我が国の支持要請にほぼ応じる。
- 積極的平和主義及び自由で開かれたインド太平洋戦略を支持。

経済協力

●日本は主要二国間ドナーとして開発を支援 (単位: 億円)

年度	円借款	無償資金協力	技術協力
2012年度	—	66.55	37.09
2013年度	88.52	73.74	39.40
2014年度	368.09	88.27	39.45
2015年度	172.98	79.47	34.12
2016年度	111.36	107.28	39.69
累計	1168.16	1972.40	826.35

(重点分野)

「産業振興支援」「生活の質向上」
「ガバナンスの強化を通じた持続可能な社会の実現」の3分野。



我が国ODAにより建設された「つばさ橋」「きずな橋」をモチーフとした紙幣。

最近の主な要人往来

- 12年6月 皇太子殿下, カンボジア御訪問
- 12年7月 玄葉外務大臣, カンボジア訪問
- 12年11月 野田総理大臣, カンボジア訪問
- 13年2月 秋篠宮殿下, カンボジア御訪問
- 13年11月 安倍総理, カンボジア訪問
- 14年6月 岸田外務大臣, カンボジア訪問
- 18年4月 河野外務大臣, カンボジア訪問

- 10年5月 シハモニ国王陛下訪日(国賓)
- 12年4月 フン・セン首相訪日
- 13年12月 フン・セン首相訪日(実務訪問賓客)
- 15年2月 ソー・ケン副首相兼内務大臣訪日
- 15年3月 フン・セン首相訪日(国連防災世界会議)
- 15年7月 フン・セン首相訪日(日・メコン首脳会議)
- 16年2月 サイ・チュム上院議長訪日(参議院議長招待)
- 17年8月 フン・セン首相訪日(実務訪問賓客)
- 18年10月 フン・セン首相訪日(日・メコン首脳会議)